



もがみ 仕事の魅力



2019
Vol.19
(2月)

通信



もがみの農業を元気にする意見交換会

2月15日(金)、山形県立新庄神室産業高校において、同校生物生産科・生物環境科の1年生60名を対象に最上地域で意欲的に農業に取り組む6名の若手農業者によるパネルディスカッションと意見交換会を開催しました。前半は6名のパネリストが農業を始めた理由や魅力、セールスポイント等を発表してもらい、後半はグループに分かれて意見交換を行いました。たくさんの質問が出され有意義な意見交換会となりました。



伊藤 貴之さん (大蔵村)



大学卒業後1年間の研修を経てトマト栽培を開始。その後、栽培技術の向上や産地の拡大により収益性が向上し、全国からも産地として認知されてきた。小さい農家がまとまることにより他の産地に対抗できる。皆さんもトマト栽培やってみませんか。

井上 学さん (鮭川村)



菌床しいたけ、なめこを栽培。Uターン就農。地元のきのこ生産者から技術を習得。JA出荷で売上もここ数年伸びている。卒業したら農業以外の進路に進む方が多いと思うが、農業をやりたいと思ったら、この地域にはいいメンバーがいるのでぜひ相談してほしい。



海藤 鷹さん (最上町)



中玉トマトを栽培。農大卒業後すぐ就農し4年目。トマトは2年前から自社ブランド「恋熟トマト」として東京などで販売している。また、食のイベントなどに積極的に参加し、販路拡大を行っている。夏に仕事をしっかりやり、冬は自由な時間を持つことを目標としている。





新田 祥子さん(真室川町)

ミニトマト、水稻、ほうれんそうを栽培。他産業従事後実家に就農。農家は会社経営と同じで、やり方次第で成果がでる。収益が上がるとやりがいがある。経営セミナーに出席し多くの仲間と出会い、地域のたくさんの方に教えてもらえる農業は夢のある職業です。



星川 和博さん(新庄市)

ねぎを栽培。他産業従事後就農8年目。農大で学んだことが大きい。ネットワークもできた。何事も精一杯がんばることが大事。若い人の力を一つにして全国に「もがみねぎ」を発信していきたい。



八楯 和泉さん(舟形町)

農業法人のねぎ部門を担当。非農家出身。ねぎの先進農業者のもとで1年間研修を受け、技術を身につけた。なにも知らなかった私でさえやる事ができた。ここ最上には相談できる人がたくさんいるのでみなさんの職業の選択肢の中に農業も入れてください。



◆高校生からは、「なぜ農業をやろうと思ったのか」「農業をやってよかったことはなにか」「農業を始めた時の苦労はなにか」「経済的に大変だったことはなにか」「一人前になるまでの時間はどれくらいかかるか」また、「地元での野菜の流通量はどれくらいか」「野菜栽培で気をつけることなにか」「多雪地帯での野菜のハウス管理について」「また今後の農業経営について」などたくさんの質問が出され有意義な意見交換会となりました。

～お問い合わせはこちらまで～

山形県最上総合支庁(山形県新庄市金沢字大道上 2034)
地域産業経済課(産業振興) TEL 0233-29-1309
農業振興課(地域農政) TEL 0233-29-1319
農業技術普及課(経営企画) TEL 0233-29-1326
発行日:平成31年2月

農業はやり方次第でもうかる産業。職業の選択肢にぜひ入れてください。



最上総合支庁
安孫子産業経済部長